

思春期ピアカウンセリング事業の一考察

黒田 ちえ¹⁾ 駒井 まり¹⁾ 長谷川聖子¹⁾
田鎖 良樹¹⁾ 五十嵐世津子²⁾ 森 圭子²⁾

1) 中南地域県民局地域健康福祉部保健総室
2) 弘前大学医学部保健学科

I. はじめに

青森県では、思春期の若者たちが性に関する正しい知識や生命の尊さを学び、望まない妊娠を防ぐために自己決定能力の向上を図り、心身共に健やかに成長できるように支援する取組みとして、平成17年度から、思春期ピアカウンセラー（以降「ピアっ子」）を養成している。当保健所では、中・高校生が自らを大切に、自分の人生目標を実現していくために、自分の生き方を考え、自分の想いを相手に伝えていくことができるように、中・高校、弘前大学医学部保健学科看護学専攻（以降弘大保健学科）と連携を図りながら、思春期ピアカウンセリング事業を効果的に進めているので報告する。

II. 実施状況（H17年9月～H18年9月）

1. 思春期ピアカウンセラー養成事業

	養成講座	
	基礎コース課程	フォローアップ研修
対 象	弘前大学医学部保健学科看護学専攻1～2年の希望者	基礎コース課程を修了し、未だ受講していない者
講 座	4日間・30時間	2日間・15時間
講師等	セクシュアリティ・ピアカウンセリングの知識、ピアカウンセリング実践	
修了者	H17年（26名）、H18年（20名）	H17年（10名）、H18年（H19.1予定）

2. 思春期ピアカウンセリング教室（以降「ピア教室」）

1) 実施学校

年度		受講者	ピアっ子	時間	対象者
17	高 校	15人	17名	90分	3年生希望者
		10人	10名	90分	1～3年生希望者
18	中学校	28人	23名	90分	3年生

※今後の予定 高校1校（3年生希望者16名）、中学校2校（2年生48名・150名）

2) 実施内容

(1)高 校：①アイスブレイク②人生設計③エデュケーション（月経周期、妊娠、避妊、性感染症）④コンドームスキル⑤ネゴシエート

(2)中学校：①アイスブレイク②愛の12段階③エ

デュケーション（思春期って、心と体、妊娠、マスターベーション）④ネゴシエート

(3)実施後のアンケート

高校生N = 25 中学生N = 28

	できた		まあまあ できた		どちらとも いえない		できなか った	
	高 校	中 学	高 校	中 学	高 校	中 学	高 校	中 学
(1)楽しく参加できたか	25	19	0	7	0	1	0	1
(2)性について理解できたか	24	17	1	9	0	2	0	0
(3)体を大事に思うことができたか		19		8		1		0
(4)自分の生き方を考えることができたか	23		2		0		0	
(5)相手に自分の想いを伝えられたか	10	10	12	13	0	4	3	1

(4)実施後の感想

- ①大人には聞けなかったことがちゃんと聞けてよかった。
- ②みんなと性や異性との付き合いについて話したことがなかったから新鮮だった。
- ③ピアっ子のみんながすごくフレンドリーで楽しかった。
- ④エッチは自分もそうだけど相手の気持ちを受止めるものであると思った。
- ⑤最初は緊張したが段々楽しくなって少しずつ自分からも話しすることができた。

3) 保健所の役割

- (1)ピア教室のPR及び開催希望校を開拓
思春期保健関係者研修会・会議等で教室をPRし、開催希望校の開拓を図る
- (2)ピア教室の開催校との事前打合せ準備
- (3)プレピア教室の見学：関係者間で、内容等について意見交換
- (4)当日は事業主催者として全体進行等を担当
- (5)実施後に中高生・ピアっ子へのアンケートを実施し、後日反省会を実施

4) 弘大保健学科の役割

- (1)ピアっ子の活動を見守り、相談等に随時サポートする
- (2)ピアっ子及び保健所等への連絡・調整

Ⅲ. 考察

1. 中高校生の反応

- 1)「学校での性教育より分かりやすく楽しかった」、「自分のことも言えたし、相手のことも色々聞いた」等教室が楽しく、自分を表出し、自分自身のことを考える場になっている。
- 2)「早く仲良くなれるように敬語を使っていなかったのととても話しやすかった」等、ピアっ子の言葉が、生徒達には新鮮で、ピア意識を持ち、ピアっ子からの情報に共有し、共感できている。

3) 実施後の反省会で「保健室でこれまでは触れられることのなかった書物に関心を示す生徒も出てきた」、「コンドームスキルがよかった。今までは彼氏にまかせっきりであったが、彼氏に教えてあげたい」等の声がかかれた。

2. ピアっ子の反応

- 1) 養成講座（基礎コース）を受講したことで「小学校の時のような積極さに戻れた」、「自分の何かが変わり自分が素敵に思えて価値観も変わった」、「多くの人にピアのことを知ってもらいたい」等の気持ちに変化がみられ、4日間の講座終了時には「いろんな活動に参加したい」という意気込みが感じられた。
- 2) 「男子中学生に近づこうとしても離れて行かれてしまったが、グループディスカッションは盛り上がった」、「ピアっ子を自分達と同じ高校生として見てもらえたので、気軽にディスカッションができた」等、ピアっ子として、充実した楽しい時間を中高生と共有できている。

3. 思春期ピアカウンセリング事業

- 1) 弘大保健学科、ピアっ子及び保健所は綿密に連絡・調整を図り事業を進めている。
- 2) 保健所は、母子保健・思春期保健等の会議・研修会でピア教室、ピアっ子による教育が多感な思春期の若者達の自己表出、自己決定、自尊感情を育てる一方法として有効であることをPRしている。
- 3) 弘大保健学科は、ピアっ子の実践活動を準備段階から見守り、随時、助言し事業をサポートしている。
- 4) 学生であるピアっ子は、学業が優先され、活動する時期が土・日曜日、長期休暇等に限られる。
- 5) ディスカッション等を取り入れたピア教室は1回の対象数が限られる。
- 6) 思春期の子どもたちが随時相談できる学校とは違う場所が、確保されていれば、「思春期ピアカウ

ンセリング事業」が広く認知されると思われるが、場所、支援する大人等の確保が必要である。

7) 産婦人科医等の専門職による「思春期教室」と併行して、「ピア教室」を実施することで、より思春期教育が有効と思われるので、市町村保健師、養護教諭等と連携しながらピア教室等を開催し、ピアっ子を支えていく必要がある。

4. 学生であるピアっ子は卒業していくため、継続養成していく必要がある。